

平成 23 年 男女共同参画ランチョンセミナー
「男女共同参画への取り組み—大学の現状に学ぶ—」を終えて
文責：植物学会男女共同参画委員会・川合真紀（埼玉大）

日本植物学会第 75 回大会（東京）初日のお昼休みに、第 2 回男女共同参画ランチョンセミナーを開催しました。今回は、「男女共同参画への取り組み—大学の現状に学ぶ—」と題して、東京大学の男女共同参画推進ディレクターを務めておられる三浦由紀子氏、東京大学・理学系研究科の准教授であり学会員の伊藤恭子氏のお二人にご講演いただきました。170 名を超える参加があり、盛況な会となりました。

講演 1 の三浦氏は、ご自身の生物系ポストドクや留学の経験に基づき、男女共同参画や若手のキャリアパスに関する問題に取り組んでおられます。東京大学は国内の大学の中でも顕著に女性教員率が低い状況にあること、この状態を打開するために、総長直属の組織が作られ、行動シナリオに沿った改革が推進されている事などをご紹介いただきました。子育て世代の支援として学内保育園が設置されたり、女性限定教員公募を実施するなど、積極的な取り組みに希望をいただきました。

学会員でもある伊藤氏には、講演 2 でシロイヌナズナを用いた維管束分化に関するご自身の研究紹介を交えながら、ポストドク時代の留学生活や、帰国後の遠距離通勤の苦労などをお話しいただきました。新幹線通勤や子育ての苦労がある反面、やりたい研究を継続できることに對する満足感など、日々、楽しみながら生活と研究を両立されていることが伝わり、勇気づけられた聴衆の方々も多かったのではないのでしょうか。



セミナーの様子。170 名を超す方々にご参加いただきました。

第 2 回 日本植物学会主催男女共同参画ランチョンセミナー

男女共同参画への取り組み
—大学の現状に学ぶ—

2011/9/17（土）12:10~12:50
場所：駒場キャンパス13号館 K会場

- 挨拶 福田 裕穂氏（日本植物学会会長）
- 講演1
「東京大学における男女共同参画の取り組みについて」
三浦 有紀子氏（東京大学・男女共同参画推進ディレクター）
- 講演2
「ポストドクから今に至るまで -ライフイベントを含めて-」
伊藤 恭子氏（東京大学・理学系研究科）



*ランチ引換券をお持ちでない方も入場できます

世話人：川合 真紀（埼玉大学・理工学研究科）

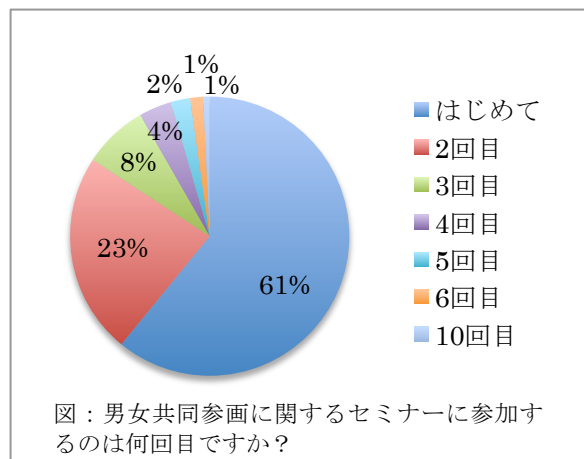
講演後は質疑応答が行われ、パートナーである男性の協力や、職場の協力に関する質問やコメントが寄せられました。最後に司会の佐々木成江氏（名古屋大）より、福田裕穂学会長（東京大）に、次回大会においても本セミナーの開催をお願いし、閉会となりました。

本学会の男女共同参画の取り組みも、ようやく二回目のセミナー開催に辿り着いたところですが、着実に本学会の中に男女共同参画に対する理解が広がっていると感じます。本セミナーに初めて参加されたという若い方も多く、今後、じっくりと時間をかけて、地道にセミナーの回を重ねていくことが大事であると思います。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、第 2 回男女共同参画セミナーを開催するにあたりご協力いただいた講師の先生方、学会執行部、及び大会実行委員の先生方、男女共同参画委員の先生方のお力添えに心から感謝いたします。

＜アンケート集計報告＞

セミナー時に配布したアンケート用紙のうち、134 件を回収し、集計を行いました。回答の男女構成は、男性 59%、女性 41%でした。男性のうち 64%、女性のうち 80%が独身であり、大学院生やボスドクなど若い方に多く参加いただけた様です。下図に示す様に、男女共同参画に関する集会に参加するのははじめて～2 回目という方が大多数を占めました。



(1)Q:今後の植物学会における男女共同参画の活動に、何を期待しますか。(選択者が多かった項目を抜粋)

- ・大会のセミナー企画（ランチョン形式）
- ・女性だけに限定しない若手支援
- ・女性座長の積極的採用
- ・アンケート等による学会内の現状調査
- ・学会 HP での情報発信

大会のお昼休みを使ったランチョンセミナーは、時間の制約が問題ですが、気軽に多くの方に参加していただくという点では良い方法です。男女共同参画委員会としても、同様の形でしばらく開催していく事を提案していきます。また2 番目の女性だけに限定しない若手支援については、任務が限定された本委員会の活動としては難しい課題ですが、今後、本セミナーの中で取り上げる事を検討したいと思います。女性座長の積極的採用については、昨年開始した大会における男女比調査の結果に基づきアクションをとっています。本大会では、プログラム編成の段階で参加者の男女比に沿った割合となるよう委員会から要望を出しました。その結果、去年の大会では座長に占める女性の割合は 7.3% でしたが、本大会では 14.7%と 2 倍にすることができました。次大会におきましても同様の要望を出す予定です。続いて、

アンケートによる現状調査、HP での情報発信についても、このような報告書の公開などを含め、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

(2) Q:今後、セミナーで取り上げてほしいテーマは何でしょうか。

「男性の立場からの男女共同参画」「他国での取り組み」「男性の家事・育児参加」「ワークライフバランス」といった項目への希望が目立ちました。今後のセミナー企画の参考にさせていただきたいと思います。

(3) セミナーに参加した感想や意見など、自由記入欄によせられたコメント（抜粋）

- ・大学としての共同参画の取り組みなどあまり知らなかったの知の機会になって良かった。(男性・博士)
- ・女性を受け入れてくれる環境がここまで整っているのだと感じました。来年から大学院に入りますが、これから先のことをいろいろと不安に思っていたので今日お話が聞けて良かったです。(女性・学部生)
- ・仕事とプライベートの両立の難しさを感じた。女性だけではなく、男性や研究機関、国が意識改革をしなくてはならないのではないか。(男性・会社員)
- ・男性の生の体験談も聞きたい。(女性・博士)
- ・数の上での平等を目指して、女性だからという理由で採用されるのは能力を評価されていないような気がしてしまう。男女共同参画などという言葉が必要ないような時代が早く来てほしい。(女性・修士)
- ・女性の進出に難があることは知っているが、具体的な対策は初めて聞いた。今回のようなセミナーは多くの場所でやるべきだと思う。(男性・修士)
- ・周りのサポートだけでなく女性の意識(男性の意識だけでなく)を変える必要もあるんだろうな、と思いました。(女性・博士)
- ・研究者としての人生、父親として、母としての人生、男性として、女性として、男子学生として、女子学生としての人生。互いに理解、尊重しあえ“研究の世界”を構築していく、と今回の参加者全員が思えるならば意味のあるセミナーだと思います。地道にやっていくしかないですね。(男性・修士)
- ・子供をあずける場所の大切さがよくわかりました。なんとかもっと増やすことができれば良いのですが。(男性・助教)
- ・労働人口が減る中で女性が力を発揮できる環境整備が必要。法律であえて求めずとも自然に達成されることが理想だが、それまではこのような取り組みを続けるべき。(男性・研究員)

—たくさんのご意見をありがとうございました—